

令和5年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価(年間) (評価規準 A:十分に実践されている B:ある程度実践されている C:不十分である D:分からない)

建学の精神 女性の自律・自主と先度他の心の涵養						
教育目標 白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。						
本年度の重点目標 ①生きる力の育成 ②個々の適正に応じた進路指導 ③社会生活に適応する力の育成 ④積極的な情報発信 ⑤自己管理の育成 ⑥危機管理意識の高揚						
重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み	評価	学校関係者からの意見
①生きる力の育成	ICTを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 Google Classroomを再導入し、連絡事項や課題の配信などを通して生徒がスマートフォンやタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。 (2) 具体的指標 学習や連絡のために生徒が自分のスマホ、学校のタブレットを使用する場面(スタディサプリ含む)を平均してどれくらいの頻度で設けることができましたか。 A:週に3回以上設けることができた。 B:週に1、2回は設けることができた。 C:週に1回も設けることができなかった。	B	アンケート結果 A 19.0% B 52.4% C 28.6% ・今年度より職員がGoogle classroomを常時使用するようになり、朝礼や生徒への連絡で役に立っている。 ・生徒個人の電子機器を使用するのは多少(校風指導的に)危険性があると思う。 ・職員全員でGoogleClassroomを使つての生徒への連絡、授業での活用方法についての研修を行ったが、まだまだGoogle Classroomを活用している先生は少なく感じる。 ・教員用iPadが一人一台欲しい。 ・来年度は強制的にGoogleClassroomを使用する場を設けていきたい。使い方や活用方法を説明しても踏み出せない先生が多い。	B	・先生方の研修の日数を増やして、先生方が使い方をしっかり覚えて、誰でも使えるようにしてもらいたい。 ・便利なものはどんどん使って欲しい。苦手意識のある先生には丁寧な研修も必要かと思う。 ・ICT機器の活用を学校で決定したとしたら、全職員が取り組むべきと思う。全員でやってみて、活用の是非を考えることが良いと思います。 ・ICTの活用について、生徒は難しいことではないので、生徒の取り組みスムーズにできている。今後も活用して欲しいです。 ・文明の利器を使うことに抵抗を感じる?しかし、ついて行かなくては時代から置いていかれます。先生、大人もがんばりましょう!! ・Google Classroomを活用されているが、使われる機会が少ないです。例えば、学校行事についての詳細やテスト範囲など知りたい情報がたくさんあるため、もっと活用して欲しいです。できれば先生方皆さんが使っていたるようにお願いしたいです。 ・iPadを1人1台使えるようにしたい。 ・タブレットの活用は今一つ。教員が一丸となって指導していただくことを望みます。 ・ICTを使える能力は必要だと思う。反面、個性豊かな教師の授業、関わりは良い思い出にもなり、感化されるので、それも大切なことだと思う。
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム(1年:Inspire High、2年:ぼらぶら)を有効に活用し、生徒が自分自身の強みや興味・関心などを把握し、進路選択を考える機会を作る。 (2) 具体的指標 (高1・高2のみ)総合的な探究の時間を通して自分自身の進路選択を考えることができましたか。 「できた」「まあまあできた」という回答が 7割以上:A 5割以上:B 5割未満:C	A	アンケート結果 「できた」:44.7% 「まあまあできた」:44.3% 「あまりできなかった」:7.9% 「できなかった」:3.2% ・1年生の探究の時間では、「自己理解」という内容で授業を行っている。その後、「自己表現」「他者理解/社会課題」と段階的に学習していき、最終的に進路選択へとつなげていく予定である。ディスカッションを行うことで自分の考えを伝えたり、人の考えを聞いたりすることができるようになってきた。 ・高校2年部ではSDGsに関するパワーポイント作成と発表、それに関する小論文の作成を行った。進路に繋げるのは難しいが、SDGsは大学の入学試験の小論文で題材にされることもあるテーマで自分で調べ、小論文を書いておくことは生徒のためになっていると思う。 ・来年度は高校1～3年生全クラスで総合的な探究の時間を行う。現高校1年生で行っているInspireHighを来年度の新高校1年生でも導入して順心に合うスタイルを確立していきたい。	A	・高校1年の頃から進路選択を探究の時間を通してやって、半数近くがまあまあできているようで、早い段階からしっかり考えられていて良いと思った。 ・進路選択に向けて、早い段階から自分を知るという学習はとても良いと思う。小論文は急にやれと言われてできるものではないと思うので、経験しておくことは無駄ではないと思う。 ・物事の優劣に、ディスカッションを通して教えられることも多々あるかと思われる。自身が進路選択を見極める力が付いてきている様子が窺える。 ・自分を理解するということになかなか納得がいけない部分もあるが、授業で行ういろいろな角度から考えさせられ、また教えられ、自分を見つめ直すきっかけになったと思う。 ・今後、ディベートも取り入れることで、より論理的思考など身につけていくのではと思うのですが。 ・自分の進路選択を考える機会をつくってくれていて、とてもいい活動だと思うので、その時間を増やしていくことは可能か? ・小論文の題材にするのであればSDGsに特化せず、毎年各学部の傾向を追って書いてみてはどうか。 ・進路実績を各中学校へ発信していると思うが、小学校へも発信したらいかかと思う。(既に発信しているかもしれないが)また、進路情報を保護者がどれだけ知っているのか?(広報されているのか、学校で開く場があるのか)
②個々の適性に応じた進路指導	[進学] 進学実績 & 学力の向上	(1) 具体的方策 ア 今年度もチューター制で指導を行うが、中堅以上の大学や看護医療系においては、志望校が決まった生徒から随時、学年及び進路課職員で指導を実施する。 イ 看護医療系は指定校推薦から一般入試まで個々の能力に合わせた指導を行う。 ウ 模試対策は教科担当が中心となり、例年よりも早い時期から指導をし、授業でも過去問題を扱う。 エ スタディサプリはシラバスを作成し、計画的な課題配信と確認を行う。 (2) 具体的指標 ア 国公立大学及び中堅以上の私大に10名以上合格させる。(中堅私大は河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。) イ 看護医療系志望者は全員合格させる。 ウ 進研模試で全国偏差値50以上を特進はクラスの50%以上、総進はクラスの10%以上を目標とする。 エ サプリ到達度テストの正解率を高1は70%以上、高2・3は60%以上を目標とする。 達成項目3つ以上 : A 達成項目2つ : B 達成項目0または1つ : C	B	(ア)国公立大学7名、中堅以上の私大13名、海外留学2名の合格者を出せた。今年度の目標は国公立大学及び中堅以上の私大に合格者を10名以上出すことであり、達成できた。進路先の内訳は、四年制大学62%・短期大学5%・専門学校30%・留学3%であった。今年度は四年制大学への進学率が高かった。チューター制指導がきちんとできたと思われる。 (イ)公立の看護専門学校志望者はいなかったが、四大や私立専門の看護医療系志望者は、第一志望校へ合格できた。 (ウ)全国偏差値50以上の割合が特進では、3割から4割であった。総進は1割に届くかどうかであった。総進はカリキュラムが変わったため、1年生の数学は授業進度が模試に追いついていない。 (エ)高1は70%以上取ったクラスはなかったが、国語と数学は65%位取れてきている。1回目よりも2回目の方が全体的に上がっている。高2・高3も60%以上取ったクラスはなかった。50%取れなかったクラスや教科が多かったため、事前対策指導を授業や宿題でもっと行う必要がある。 ※ 国公立大学の推薦枠が増加しているため、次年度はさらに国公立大学への挑戦者を増やしたい。	B	・国公立7名、中堅私大13名は素晴らしい結果だと思うので、取り組みのチューター制がしっかり行われたと思う。 ・国公立、中堅私大以上で20名の合格が出たのは、しっかり指導ができたからの結果だったと思う。来年度も今年以上に合格者が増えるよう、引き続き指導してもらいたい。 ・志望校が決まった生徒への先生方の迅速なご指導、助言により多くの合格者が出たのだと伺える。チューター制をこれからも評価していきたい。 ・中高一貫の効果が表れてきたのではないかと。益々中学生を呼び込んで、順心を選んで良かったと思っていただけるよう、実績を積んでいただきたい。 ・進学率も上がっていることと、教職員の熱い思いのもと指導していただいていることを嬉しく思う。 ・私学ならではの丁寧な指導があると思うが、その分生徒さんに危機感がないと思う。 ・推薦枠が増加しているのであれば、小論文対策も今以上に欲しい。 ・サプリ到達度テストの正解率を、目標達成できるよう対策が必要かと思う。

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み	評価	学校関係者からの意見
②個々の適性に 応じた進路指導	〔就職〕 入社後のミスマッチをなくす	<p>(1) 具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に合った、自分のやりたい仕事は何かをよく考え、企業研究を十分に行う指導を実践することで入社後のミスマッチをなくす。 企業に来校していただき、生徒が希望する企業から説明を受ける機会を設ける。(20社予定) 同友会主催のオンラインによる企業説明会に積極的に参加させる。 企業訪問や卒業生、行政機関、企業採用担当者等の講話を通して、企業への理解を深め、社会人になることへの意識高揚を図る。 <p>(2) 具体的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 入社後1～3年目の卒業生を対象にアンケートを実施して、現況について報告してもらい調査を行う。 調査結果より <ul style="list-style-type: none"> 全員がミスマッチなし・・・・・・A 1%がミスマッチあり・・・・・・B 1%以上がミスマッチあり・・・・・・C 	B	<p><卒業後1～3年目の卒業生を対象にしたアンケート結果></p> <p>(1)実施R6.1月 調査対象者数148人、回答者数61人(41.2%)</p> <p>(2)現在も同じ企業で勤務している者56人(91.8%)</p> <p>(3)3年間で退職、転職した者5人(8.2%) 県平均値(30.4%)</p> <p>(4)入社後何年目で退職したか</p> <p>1年目5人8.2%(県11.7%) 2年目0%(県9.6%)</p> <p>3年目0%(県9.1%)</p> <p>(5)現在も勤務している企業について</p> <p>これからも勤務する33人(58.9%) 辞めたい12人(21.4%)</p> <p>どちらともいえない11人(19.6%)</p> <p>辞めたい理由</p> <p>労働時間・休日との条件7人(30.4%)</p> <p>ノルマ・責任が重すぎる5人(21.7%)</p> <p><考察></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年目での退職率は、県平均とほぼ同じであるが、2、3年目の数値はかなり低かった。 ただし、現在も勤務しているがやめたい、どちらともいえないが41.1%と多いのが、課題である。 <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 従来どおりの企業説明会、オンライン企業説明会等の実施 1、2年生からのインターンシップを経験して、企業を知ること。 企業の職場環境、労働条件等を実際に勤務している卒業生から直接話を聞く機会を設けること。 <p><評価について></p> <p>具体的指標の評価基準では、評価はCになるが、1年目の退職率は県平均値の11.7%を下回る8.2%で、2～3年目の数値は0%となることから、あえて評価はBとした。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 退職率が2、3年目はかなり低いのは、ミスマッチが少なかった結果だと思う。辞めたい理由に労働時間、休日が出ているが、求人情報とそんなに違いがあるのか？求人の時点でしっかり確認してあげることが大事。 ミスマッチは本人にも、企業側にも負担になると思われる。さまざまな職種の中から自分に合うかどうかの判断材料について説明会やインターンシップ、企業訪問はとても有効だと思う。 世の中に先に出ている先生方のアドバイスで数字は変わると思います。体験に優るものはありません。多くの引き出しをお持ちの皆様ですから、自信をもって接してください。 卒業生を対象にしたアンケートを、これからも続けて調査してもらいたいと思います。 アンケート(卒業生)の回答率がもっと上がるとより良いと思う。卒業生から直接話を聞ければ、生徒たちの企業に対するイメージがより具体的になり良いと思う。 「インターンシップ」への参加状況については、生徒を含む保護者への周知を明確な方法で、早期から伝達されることを望む。 企業から説明をうけるのも大切ですが、実際に働き始めた卒業生の生の話をもっと聞ける機会をつくってもらえたらと思う。 実際に勤めている卒業生の話を聞けるのはとても身近で、質問なども気軽にできそうなので、そちらも期待したい。 1年以内に退職者が出た場合、企業側に迷惑が掛かり、苦情はありませんか？また、翌年にその企業からの求人は如何ですか？ 現在採用してくださっている企業は、大切にしていきたい。
③社会生活に 適応する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	<p>(1) 具体的方策</p> <p>白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的に取り組むことができるよう、初期指導やHRで目標を設定させる。</p> <p>(2) 具体的指標</p> <p>学期終了時に生徒指導課の反省表を記入し、振り返りを行う。「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が</p> <p>7割以上 : A</p> <p>5割以上7割未満 : B</p> <p>5割未満 : C</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 白梅精神に基づく清楚・芳香・忍耐については三年間かけて徐々に理解されるものである。各学年の目標を具体的に示し、生徒自身が自己反省し、次の目標を設定できるようにしなければならない。また、教師のタイミングを図った指導の継続、全職員の熱意が重要である。 「Fujieda junshin チェック」の振り返りが次につながる形で、具体例を出しながら丁寧に振り返らせたい。 職員室の出入りや挨拶の仕方などの礼とはどのような立ち居振る舞いをいうのか、さわやかさとはどのような身だしなみや態度をいうのかを理解させる手立てを講じたいと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導する方も大変かと思うが、根気よく(ねばり強く)、丁寧に指導をお願いしたい。 「人の振り見て我が振り直せ」の諺のごとく、全職員が指標になりますように。 定期的なチェックは、自身を振り返る機会になり、白梅精神を意識する機会になっていると思う。 入学前の生活の中で、清楚・芳香・忍耐について意識したことのある生徒は、ほばいないでしょう。しかし、全ては自分のためと理解できるよう、親としても努力しますので先生方の力をお貸ししたいです。 三年間で「清楚・芳香・忍耐」を理解できていくことができないかもしれないが、卒業してわかること、順心で学んで良かったと思えることがあると思うので、礼法はとも重要。 堅苦しさはなくていいと思う。下品な振る舞いがないのは良い感じだと思う。
	礼法・学校規則の理解と遵守	<p>(1) 具体的方策</p> <p>講話をはじめとする礼法・学校の規則・社会ルールについて初期指導やHRを通して理解させ、遵守させる。</p> <p>(2) 具体的指標</p> <p>講話の聴き方や態度、移動時の行動が7割の生徒にしっかりと身につけており、校内巡視を通しての教室の整理整頓が8割以上徹底されている : A</p> <p>6割以上8割未満徹底されている : B</p> <p>6割未満 : C</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 講話の聴き方は前期にはできていなかったところが後期にはすこしできてきたように感じているが、移動時や着席後の黙想がまだ完全とは言えない。 来年度は、何のために集まっているのか、何をすべきなのか目的をもって講堂に向かわせたい。 担任がクラスの後ろについて移動、HR委員が着席、黙想の指示をすることを徹底させたい。それぞれの役割の認識を高めたいと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いつものことなのですが、職員が共通意識をもち、強い指導の継続が必要ではないでしょうか。(上記項目も同じ) 日々の丁寧な指導により、生徒自身が意識できると良い。これも根気よく積み重ねて欲しい。 日頃の指導の基、遵守すべきかどうか気付けていくことで、成果に結び付くと期待する。 何のために講話の授業があるのか理解するのは難しいのかもしれないので、根気よく指導お願いします。 少しずつできるようになった部分もあるので、引き続き指導して欲しい。 眠気と戦う子たちがいるようですね。大変だとは思いますが、講話の静かな場でも落ち着いてじっくり話が聞けるよう意識して欲しいです。 順心で学んでいることは今わからなくても、学校を出て、社会、家庭で生きることを身につけている。ただの目先のことでないと思え続けて欲しい。(上記項目も同じ)

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び今後に向けての取り組み	評価	学校関係者からの意見
③社会生活に 適応する力の 育成	違反行為 問題行動の 防止と指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、生徒指導課会議において指導方針について協議し、校長の指示を仰ぎ実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学三年間は安心安全な学校生活を送るために、高校三年間は社会に出るためのルールをしっかりと認識し安全で安心な将来を送るために学ぶ期間である。なぜルールを守るのかを生徒に理解させなければならない。初期指導だけでなく長期休業に入る前など折に触れて生徒に理解させるとともに、保護者にも呼び掛けていかねばならない。 ・いじめにつながる「人を傷つける言動」については教師がアンテナを高くして早期の状況で指導を開始しなければならない。日常の指導の中で「いじめ」は絶対に許さないという姿勢を生徒に見せていく。初期指導の中に、「いじめに関する内容」を盛り込むようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの利用などにより人間関係も複雑で、表面化しないいじめ、人を傷つける言動を早期に発見し、指導するのは、先生方も大変なことと思うが、相談できる環境・関係をつくって欲しい。 ・実態を把握するには難しい。また、場合によっては時間がかかることと思いますが、なるべく早くからの対策を心掛けてください。 ・これからも家庭と学校が連携して指導してくださることを望みます。いじめはなかなか表にはできません。匿名で生徒からアンケートをとってみるのもいいのでは？ ・違反行為については、他人事でないことに気付いていけるよう、注視していただけますよう。
		(2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れることを目指す。 違反行為や問題行動を未然に防ぐように校則の確認をHRや長期休業前に必ず行い、規範意識の向上を目指す。謹慎以上は10件以内、戒告は20件以内 : A 謹慎以上15件以内、戒告30件以内 : B 謹慎以上16件以上、戒告31件以上 : C				
④積極的な 情報発信	新規連絡 網の活用	(1) 具体的方策 「さくら連絡網」を活用できるように、職員研修会を実施し、積極的な情報発信が可能な体制を整える。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を行い、多くの教員に活用してもらえるようになってきた。使いやすく便利だと思う。 ・後期には欠席連絡機能も使用するようにしたため、電話連絡を受ける仕事大幅に軽減された。 ・アンケートの結果、「満足」53.4%、「やや満足」43.2%を合わせて満足度は96.6%であったので、十分活用できていると評価する。 ・来年度はさらに行事・イベントに合わせて担当者に依頼して情報発信を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒も、保護者もメールを確認できて、とても良いです。欠席連絡もスムーズにできて、確認メールもきて便利です。 ・学校からの連絡を簡単に受け取れるのは良いと思う。欠席等の連絡をする方、受ける方共に電話をする手間が軽減され、効率が良いと感じる。 ・欠席連絡がさくら連絡網でできるようになって、とても助かってます。先生達の負担も減っているようで良かったです。さくら連絡網でいろいろな情報を発信していただきたいと思います。 ・情報発信により相互の理解が深まることに期待します。
		(2) 具体的指標 年度末に利用満足度アンケートを実施し、満足度80%を目標にする。 A : 80%以上 B : 70%以上 C : 70%未満				
⑤自己管理 の育成	実態に即した 保健教育の 実施	(1) 具体的方策 健康診断の実施、事後措置等を通して、生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、感染症の状況等、実態に即した健康教育を実施する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって多少の差はあるものの、全体的に欠席率は1割以下であった。全体的に欠席する生徒が固定されている部分もあるので、学年や担任と情報共有しながら、生徒への声掛け・対応をしていきたい。 ・付近の学校での感染状況を情報共有しており、感染拡大等の連絡をその都度、全体に伝達・注意喚起を行い、健康管理への意識づけが出来た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席率1割以下というのはすばらしいと思う。卒業式で3か年皆勤の生徒が多数いるのも感心する。 ・健康管理に十分配慮していただいていることに感謝します。 ・学校、そして家庭と健康に対する意識が高まり、好結果を生んだと思います。これからも維持できるようにがんばってください。 ・家での体調管理も必要ですので、子供とのスキンシップをしていくことも大切だと思います。 ・学校やクラスで感染が広まってきているとか、情報があればさくら連絡網で知らせてもらえれば、家でも気をつけることができると思う。
		(2) 具体的指標 健康診断結果を通して健康状態を把握させ、保健だよりを通して時期に合わせた情報を提供し、感染症が流行する前には、注意喚起を行う。 欠席率が全体で4割未満 : A 4割以上5割未満 : B 5割以上 : C				
⑥危機管理 意識の高揚	体験型 防災訓練の 実施	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に比べ、相談できると答えた生徒が増加。普段の会話からや二者面談などを活用し、教員から生徒へのアプローチ、部活や普段の様子から気になる点がある場合は、教員同士情報共有することで、職員全体で生徒への支援を行うことができた。しかし、生徒自身が耐えられず、欠席などの現われから対応することもあるので、早期発見・早期対応ができるよう、職員全体で情報共有などより密に行っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる生徒が増加したことは良かったと思う。先生方も気にしてくれている様子が感じられた。 ・普段から生徒と先生のコミュニケーションを大切に、いろいろな話がしやすい雰囲気にして欲しい。 ・先生方全体で情報を共有し、支援してもらえるのは、生徒にとっても良いことと思う。誰に相談しても良いんだという環境が望ましい。 ・スクールカウンセラーとの密なるアプローチがあることで、心のケアに繋がることと思われる。是非、教職員同士の情報共有を大事に。 ・先生方やカウンセラーの方にも見抜けない部分が少なからずあると思う。むしろ生徒の方が普段から見聞きして、詳しく知る子もいるので、アンケートなど積極的に行い、早期に発見し、迅速に対応していただければと思う。
		(2) 具体的指標 学期終了時に生徒指導課の反省表 教育相談項目にて、教員（スクールカウンセラー含）に相談できる生徒が6割以上 : A 4割以上6割未満 : B 4割未満 : C				
⑥危機管理 意識の高揚	体験型 防災訓練の 実施	(1) 具体的方策 各種の体験型防災訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教室からの避難ではなく、昼休みを想定して各所に散らばった状況も想定したが、非常時の訓練として大変意義があったように思われる。 ・アンケートの結果、危機管理意識が「高まった」47.9%、「やや高まった」46.6%を合わせて94.5%あり、成果は大きかったと評価する。 ・来年度は自衛隊の方々に指導していただく予定で、特別教室での実習や放課後の部活動時を想定して計画したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を実践に結び付けてください。管理意識に繋がるのでは。 ・このところ、大きな地震や雨の災害など頻繁に起きています。非常時の訓練の必要性をとっても感じていますので、危機管理意識を校内全員で高められるよう、これからも継続していただきたい。 ・地震もあちこちで頻発し、いつ、どこで被災するかは本当にわからないので、いろいろな方法で訓練を行うのは、とても良いと思う。 ・今年は地震が多いので、時間がつくれたら、訓練(抜き打ち)の中で帰宅方法まで訓練で説明があったらと思う。 ・いつ、どこで来るのかわからないので、登下校中に来たらどうするのかの指導をして欲しい。 ・大変意義深い訓練で良かったと思う。専門家の指導の下に行う訓練は迫力、危機感があり、生徒も防災に対する認識度が高まりそうです。これからも公共機関で実施してくれる機関があれば、是非お願いしてはどうでしょうか。
		(2) 具体的指標 防災アンケートで危機管理意識が高まったと感じる生徒・職員が90%となることを目標とする。 90%以上 : A 75%以上 : B 75%未満 : C				